

---

# 現世での再会

デジャブ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

現世での再会

### 【Nコード】

N33760

### 【作者名】

デジャブ

### 【あらすじ】

前世での恋人との再会

僕の中での返事は決まっていた。あとはタイミングだけ。

でも、長い沈黙がちよつとキツイ。

「ごめん・・・」小さな声で、はっきりと告げた。

とたんに、崩れるように泣き出しそうになった目の前の女の子・

後姿をちらつと振り返ると、ため息が出た。こんな感じの告白が今年になって増えた。

恋愛に興味がないわけでは、もちろんない。

今、18歳高校3年。ナルシストではないが、はた目にはイケてるほう。冷静に客観的に見てさ。

でも本当の僕って、こんな外見とはちよつと違う気がする。

自分の中には確固たる意思を持った不動の誰かがいるような気がするんだ。

二重人格ではないけれど、いざっていう時に思ってもいないような行動をする僕の中の天使か悪魔。

二重人格でないとわかつているのは、そんな自分を自分で認めていてけっこう好きだから。

そんないろんな事を考える、いろんな事をする僕も含めて僕で、天使でも悪魔にでもなれるんだよ。

「おかえりなさい」家に着くとお母さんが夕飯の用意をしていた。

二階にあがりベッドに横になると、昨夜の夢を思い出していた・

そこは、たぶん昔の日本。戦国時代だろうか。僕は武士だった。

目の前には着物をきた長い髪の女性。僕は戦で敗れて死んでゆく

ところ・・・

「私とあなたはずっと一緒だから・・・」泣きじゃくる女性。運命？遠くなる意識の中で来世での再会を誓っていた。たぶんあの女性は僕のあとを追って自害したに違いない。

ちよつと生々しいようなリアル感覚の夢だった。

夢ではない、本当のことだったのかもしれない。僕はあの女性との再会を待っているのかも・・・。

黒髪が良く似合う美人だったなあ。昔の人でも美人はいたんだ。時代劇に出てくる人より全然魅力的。

リアル夢のせいでボーっとなっていたが、空腹が現実へ引き戻した。

「ごはんできたよー」の声で階段をとびおりた。

次の日、学校へ行くと登校している友達はずかだった。

そう、高校3年の冬だから。センター試験が終わり自主登校となっている。

私立大は受かっていた。国立大前期試験に向けて頑張らないといけない時期だった。

半分、自習のような授業を早めに終えて帰宅しようと思つた校門を出た時だった。

1台のミニバンがこちらに向かってきた。まさかぶつからないだろうという予想に反してまっすぐに

向かってくる。いよいよで、ギョツとなり避けようとしたが間に合わない。

そのとき背中を押されて違う方向へ飛ばされた。

ガ・ガガガンという音と共にミニバンが校門脇の塀に激突した。僕は路上の反対側のほうに投げられたように倒れていたが、転んだぐらいの怪我だった。

「大丈夫？」と声がかかった。僕の顔をのぞいた女の人・・・夢の中の女性がそこにいた。



## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n3376o/>

---

現世での再会

2010年10月16日05時12分発行